

音 楽 科 学 習 指 導 案

5 年 1 組 30 名 指導者 福 留 三 穂

本授業では、以下の検証を行うものである。

音楽のよさや面白さと演奏に対する思いや意図とを結び付けさせるために取り入れたグループ活動における指導の手立ては、豊かな表現を追究する力を高めるために効果的であったか。

1 題 材 いろいろなひびきを味わおう

教 材 「いつでもあの海は」 佐田和夫作詞／長谷部匡俊作曲
「リボンのおどり」 芙龍明子日本語詞／メキシコ民謡／原由多加編曲
「双頭のわしの旗の下に」 J. F. ワーグナー作曲
「アイネクライネナハトムジーク第1楽章」 モーツァルト作曲
〔共通事項〕 音の重なり、音色、旋律、強弱

2 目 標

歌声や楽器が重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり、想像豊かに聴いたりすることができるようにする。

音の特徴や音色の違いを生かして、全体の響きのバランスに気を付けながら、音の組み合わせを工夫して演奏することができるようにする。

3 題材の評価規準

- 声や音が重なり合う美しい響きを求めて表現したり聴いたりする学習に主体的に取り組もうとしている。 【音楽への関心・意欲・態度】
- 旋律の重なり方の違いが生み出す響きのよさを感じ取り、美しい響きになるように表現の仕方を工夫している。 【音楽表現の創意工夫】
- 旋律の重なり方や拍子の特徴を生かして、表情豊かに歌ったり楽器を演奏したりしている。 【音楽表現の技能】
- いろいろな楽器の音が重なり合う響きの違いや、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。 【鑑賞の能力】

4 題材について

(1) 題材の価値

子どもたちはこれまでに、4年生の題材「音の重なりを感じ取ろう」で、旋律や音が重なり合う響きを感じ取りながら想像豊かに聴いたり、互いの歌声や楽器の音を聴きながら、気持ちを合わせて演奏する能力を身に付けてきている。

本題材では、二部合唱やいろいろな楽器を組み合わせで合奏する曲を教材として、歌声や楽器が重なり合う響きを感じ取って、表情豊かに歌ったり演奏したりすることや、音の特徴や音色の違いを生かして演奏の仕方を工夫することができるようになることをねらいとした。

「いつでもあの海は」は、海に思いを寄せる心情を歌った合唱曲である。旋律の重なり方の特徴に気付かせたり、歌詞や旋律から膨らむイメージを演奏に生かしたりすることにより、歌い方を工夫させるようにしたい。

「リボンのおどり」は、全体の響きを考えながらパートにふさわしい楽器を選んだり、旋律の重なり方を工夫したりすることで、楽器が重なり合う響きを感じ取ったり、響きの変化を楽しんだりすることができる曲である。合奏では、曲のよさや面白さを感じ取ったり話し合ったりする活動を設定して、演奏に対する自分やグループの思いや意図を明確にさせたり、互いの演奏を聴き合う活動を充実させたりすることで、豊かな表現を追究させるようにしたい。

「双頭のわしの旗の下に」、「アイネクライネナハトムジーク第1楽章」は、吹奏楽と弦楽合奏の響きの違いを明確に感じ取ることができる。演奏する楽器の編成による吹奏楽と弦楽合奏それぞれの曲想を感じ取らせたり、比較鑑賞して感じ取ったことなどを交流させたりすることで、合奏による表現の深まりや広がりを味わわせるようにしたい。

これらの学習は、和声の響きを感じ取って表現したり、旋律の重なり合いを味わいながら表現したりする学習へと発展していく。また、友達とのかかわり合い重視して進めていくことで、主体的に学ぶ態度が育成され、豊かな表現を追究する力が身に付いていくものである。

(2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもたちは、音楽科の学習に対する関心・意欲が高く、既習曲をリコーダーや鍵盤楽器で演奏するなど、進んで表現する子どもが多い。しかし、演奏する際に、互いの音を聴きながら合わせたり、〔共通事項〕のかかわりによって生み出される音楽のよさや美しさを感じ取ったりする能力や、自分の

思いや意図を伝え合いながらより豊かな表現を追究する能力は、まだ十分とは言えない。そこで、自分たちの演奏や教材曲のよさや面白さを〔共通事項〕とのかかわりから考えたり感じたりさせるようにする。また、録音機器の活用により旋律の重なり方の違いが生み出す合唱や合奏の響きを味わわせ、一人一人の感じ方のよさに気付いて認め合ったり、自分の思いや意図を明確に伝えたりする活動を設定することで、互いの思いや意図を共有しながらより豊かな表現を追究できるように指導していく。

5 指導計画（総時数9時間）

主 な 学 習 活 動 【評 価 規 準】	〔共通事項〕	時間
1 題材「いろいろなひびきを味わおう」で、歌声や楽器の音が重なり合う響きを感じたり、きれいな響きを味わって演奏したりする学習をすることを学ぶ。 【関：声や音が重なり合う美しい響きを求めて表現する学習に主体的に取り組もうとしている。】 いつでもあの海は 2 範唱を聴いて曲の感じをつかみ、意味を考えながら主旋律を歌う。 【技：旋律の重なり方を生かして、表情豊かに歌っている。】 3 響きをつくる旋律を練習して、重なり合う響きを感じながら合唱する。 【創：旋律の重なり方の違いが生み出す響きのよさを感じ取り、美しい響きになるように表現の仕方を工夫している。】 互いの演奏や自分たちの演奏を観点をもって聴く「ききタイム」の時間を設定して、自分たちの表現をより高めさせるようにする。	旋律 音の重なり 強弱 (mf, f, mp)	1 2
リボンのおどり 4 「リボンのおどり」の楽譜を見て、①から⑦のパートの特徴について話し合い、それぞれのパートにふさわしい楽器を選んで練習する。 【関：音が重なり合う美しい響きを求めて表現する学習に、主体的に取り組もうとしている。】 【技：範奏を聴いたり、楽譜を見たりして演奏している。】 シンコペーションのリズムの特徴をつかめるように、ペアで階名唱をさせたり手拍子を打ったりさせ、一人一人が自信をもって演奏できるようにする。 5 曲全体のまとまりを考えて、繰り返す回数を決め、旋律の重ね方を工夫して響きの変化を楽しんで演奏する。 【創：いろいろな楽器が重なり合う響きを感じながら、パートの特徴を生かして、旋律の重ね方を工夫している。】 6 重なり合う響きの変化を楽しみながら演奏し、グループごと発表する。 【技：旋律の重なり方や拍子の特徴を生かして、響きの変化を感じ取って演奏している。】	強弱 音の重なり 反復 変化 縦と横の関係 へ音記号 アクセント リピート記号	2 1 (本時) 1
双頭のわしの旗の下に 7 曲の感じが変化するところに気を付けながら、吹奏楽の響きを楽しむ。 【鑑：いろいろな楽器の音が重なり合う響きの違いや、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。】 アイネクライネナハトムジーク第1楽章 8 強さの変化に気を付けながら、弦楽合奏の響きを楽しむ。 【鑑：楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。】 曲の特徴や曲想の変化を図や言葉、体の動きで表現させ、それらを交流させることで、感じ取ったことの原因を音楽の中から見付けさせるようにする。	音色 (弦楽器) 音の重なり 旋律 リズム 強弱	1 1

6 本 時（6／9）

(1) 目 標

旋律の重なり方の違いが生み出す響きのよさを感じ取り、旋律の重ね方を工夫することができるようにする。

(2) 評価規準

いろいろな楽器が重なり合う響きを感じながら、パートの特徴を生かして、旋律の重ね方を工夫している。

【音楽表現の創意工夫】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、旋律が変化しながら繰り返されていく構造をもつ楽曲を聴かせ、その音楽のもつ面白さに気付かせるようにする。また、感じたことと音楽の要素や仕組みとの関連に気付かせるために、「音楽のもと」の言葉を用いて発表させたり、関連を板書で整理したりする。

「見通す」過程では、学習の進め方について話し合うとともに、パートの組み合わせや繰り返すときの工夫について具体的に確認させることで、子どもの思いや意図を演奏に生かすことができるようにしたい。

「追究する」過程では、子どもたちの感性や発想を生かして、繰り返す回数やパートの組み合わせを工夫させたい。また、演奏の仕方を確認した上で演奏することができるように、繰り返す回数や演奏するパートが分かるように板書や楽譜を提示するようにしたい。

「磨き合う」過程では、互いの演奏を鑑賞する活動を取り入れ、技能的なことやパート間のバランスについて気付いたことを話し合わせ、さらにより演奏にするにはどのようなことに気を付けたり工夫したりすればよいか考えさせるようにする。

「振り返る」過程では、本時のめあてをもとに自己評価をさせたり、互いのよさを認め合ったりさせることで、自分たちの思いや意図を表現に生かすことの面白さに気付かせるようにしたい。

(4) 本時の展開 [] 子どもの意識 □ 指導の手立て ※評価

過程	時間	形態	主な学習活動と指導の手立て・評価	教材等
つかむ	10	みんな	1 「茶色の小びん」を聴かせ、どのような工夫がされているか話し合う。 ・いろいろな楽器で演奏しているね。 ・楽器の組み合わせによって、いろいろな音の重なりを感じることができる。 ・音の強さが変化すると、同じ旋律の繰り返しも楽しく聴くことができるね。 ・「リボンのおどり」でも、繰り返しを工夫して楽しみたいね。 2 学習課題を確かめる。 わたしたちだけの「リボンのおどり」にする工夫を考えよう。	音タイムで、既習教材を活用して、旋律の重なりが変化していく音楽を鑑賞させ、そのよさや面白さに気付かせることで、本時の学習への関心をもたせるようにする。 音楽の要素を工夫することで、音の響きや感じ方が変わること気付かせ、本時の学習とも関連があることを知らせる。 「音楽のもと」カード
見通す			3 学習の進め方を確認する。 ・まず、自分のパートの復習をしよう。 ・グループで工夫について話し合おう。 ・演奏の練習をしよう。場所は～だね。 ・お互いの演奏を聴き合うのが楽しみだ。 ・最後に振り返りをしよう。 ・グループ司会の進め方も分かったぞ。	学習の見通しと課題を明確にもたせるために、学習の流れやグループ活動進行表を掲示したり、音楽の要素や仕組みを工夫していけばいいことを知らせたりする。 グループ活動進行表
追究する	18	ペアでグループで	4 自分のパートの練習をする。 ・はずんだ感じのリズムだったね。 ・繰り返しのところが速くなってしまうから気を付けないといけなかったね。 5 自分たちだけの演奏にする工夫について話し合い、練習する。 ・繰り返す回数は何回がいいかな。 ・パートはどのような組み合わせにするといいかな。 ・最後は全員で演奏して、迫力のある感じを出したいね。 ・強弱も付けると、楽しくなりそうだね。 ・出だしの合図はこれでいいね。	楽器配置やグループ活動の場の設定を工夫することで、楽器の音が重なり合う響きを感じ取りやすいようにする。 ポイントシート ※ いろいろな楽器が重なり合う響きを感じながら、パートの特徴を生かして、旋律の重ね方を工夫している。(発言の内容・演奏の聴取) ○ 積極的に演奏を工夫しようとする子どもには、その工夫が音楽のよさや面白さとして表れているか意識して聴かせ、より美しい響きにするための観点に気付かせる。 ○ 活動が停滞している子どもには、技能面の助言をしたり、演奏に関する具体的な工夫の仕方を例示したりして意欲付けを図る。 グループ活動進行表
磨き合う	12	みんな	6 互いの演奏を聴き、気付いたことや感じたことについて話し合う。(ききタイム) ・グループで話し合った工夫が演奏に表れているね。 ・○班の楽器の組み合わせは、自分たちのイメージにも合うね。	
振り返る	5	みんな	7 本時の学習を振り返る。 旋律の組み合わせ、強弱を変化させると、いろいろなひびきを楽しめる。 ・みんなで工夫したから楽しい演奏ができたね。	発表前に、グループの司会者に、演奏に対する思いや意図を発表することで、互いに観点をもって聴くことができるようにする。 振り返りカード 旋律の重ね方を工夫すると、いろいろな響きを楽しめる演奏になることを理解させ、次時の学習への意欲や課題意識をもてるようにする。